

## 第16章

# イベント

令和2年2月20日に国から「イベントの開催に関する国民へのメッセージ」が発出され、「イベント等の主催者においては、感染拡大の防止という観点から感染の広がり、会場の状況等を踏まえ、開催の必要性を改めて検討していただくようお願いします。なお、イベント等の開催については、現時点で政府として一律の自粛要請を行うものではありません」との考えが示された。

本市においても、令和2年2月21日に、「第3回北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議」を開催し、大規模イベントの中止・延期を含む当面一ヶ月間の、イベント開催に関する基本方針を決定した。

その後、国の基本的対処方針において、緊急事態措置区域等におけるイベントの開催制限が示され、各自治体ともに、その制限に沿った対応を行ってきたが、感染状況を踏まえ、中止や延期となるイベントが相次いだ。

### 感染発生当初からのイベント開催における方針決定の経過(抜粋)

#### 令和2年2月21日「第3回北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議」

- ・ 「北九州市のイベント開催に関する基本方針」を決定
- 〔 ・ 市主催大規模イベント：原則、中止又は延期
- ・ 市主催以外の大規模イベント：中止又は延期の検討を要請 等 〕

#### 令和2年2月26日「第4回北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議」

- ・ 「北九州市のイベント開催に関する基本方針」を改訂
- 〔 ・ 市主催イベント：規模に関わらず、原則、中止又は延期 等
- 3月10日まで実施 〕

#### 令和2年3月5日「北九州市のイベント開催に関する基本方針」の改訂

- ・ 「北九州市のイベント開催に関する基本方針」を改訂
- ・ 市内の発生状況を踏まえ、基本方針の実施期間を3月20日まで延長

### 令和2年3月20日「第8回北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議」

- ・ 基本方針の実施期間を当分の間延長

### 令和2年6月17日「第16回北九州市新型コロナウイルス感染症対策会議開催」

- ・ 国の通知および令和2年6月14日・16日に開催した「北九州市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」での意見を踏まえ、6月19日からイベントの開催制限を段階的に緩和することを決定

#### 【緩和の目安（国の方針）】

- 令和2年6月19日～屋内1,000人以下かつ収容定員の半分程度以内
- 令和2年7月10日～屋内 5,000人以下かつ収容定員の半分程度以内

### 令和2年9月11日 「北九州市のイベント開催に関する基本方針」の改訂

- ・ イベントの類型についてはこれまで、屋内・屋外の区分で示されていたが、国の通知に基づき、「大声なし」と「大声あり」の分類となった。
- ・ 都道府県との事前相談が必要なイベントは、全国的な移動を伴うイベント又はイベント参加者が1,000人を超えるようなイベントとされた。

### 令和2年9月17日 「イベントに関する基本方針」を改訂

これまで (7/10 ~ 9/18)			今後 (9/19 ~ 11/30)		
収容率	屋内	50%以内	収容率	大声なし	100%以内
	屋外	人との距離を十分に確保		大声あり	50%以内
人数上限	屋内	5千人	人数上限	5千人又は収容定員の50%のいずれか大きい方	
	屋外	5千人			

その後は、国における「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の発出、感染状況等を踏まえたイベントの開催方針に基づき、適宜見直しを行い、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行したことに伴い、イベントに関する制限は終了した。

こうした開催制限がある中でも、感染防止対策を徹底して開催した「北九州未来創造芸術祭ART for SDGs」や、国の行動制限緩和に向けた技術実証として「ワクチン・検査パッケージ」を導入し、100%有観客で開催した「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」（令和3年10月）を実現することができ、市として大きな財産になった。

## 1 市主催イベント等への影響と対応

### (1) わっしょい百万夏まつり

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、全国的に多くの人を集める祭りやイベント開催が中止される中、令和2年度の第33回わっしょい百万夏まつりは、初の「オンライン配信」により開催した。
- 令和3年度(第34回)は、感染対策を万全に施せる会場として「ミニワールドスタジアム北九州」にて、有観客で開催するよう準備を進めていたが、県下における夏季の感染拡大の影響により、「オンライン配信」での無観客開催を行った。
- 令和4年度(第35回)については、イベント規模を縮小するなどの感染防止対策を行った上で、3年ぶりに有観客で、小文字通り周辺等のコロナ禍以前と同会場にて開催した。
- 令和5年度(第36回)については、新型コロナウイルスが5類感染症へと移行したため、コロナ禍以前の規模で開催することを決定し、「市制60周年記念事業」となっている。



まつり開催中は感染対策を呼びかけた

#### (対応を振り返って)

新型コロナウイルス対策の一環として「オンライン開催」を実施した結果、県外からの視聴や反響が大きかったことから、オンライン配信は今後のわっしょい百万夏まつりを対外的に広めていくための有効な手段であることが分かった。

### (2) 東アジア文化都市北九州

- 本市は、文化庁より2020年東アジア文化都市に選定され、2020年の1年間を通じ、多彩な文化芸術イベントや韓国・中国の開催都市との交流事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、多くの事業が中止・延期となった。こうした中、延期となった事業を実施するため、2021年も引き続き東アジア文化都市の選定を受けた。
- 2020年・2021年の2年間にわたり、コロナ禍における新しい生活様式を踏まえ、実施形態の変更や感染防止対策を施しながら、多彩な文化芸術イベントを開催した。

## 【主な開催内容及び実施した感染防止対策】

### ア KitaQ Music Days ～ ARTでつなぐ新しいカタチ～ (令和2年10月17日～18日)

#### 主な感染防止対策

- ・「イベント開催時における感染症対策マニュアル」を策定し、イベント関係者への配布やホームページに掲載 など

### イ 北九州未来創造芸術祭ART for SDGs (令和3年4月29日～7月13日)

#### 主な感染防止対策

- ・会場出入口での消毒、会場内の換気、観覧を予約制にするなどの感染対策を実施など

### ウ 交流式典 (令和3年6月6日)

#### 主な感染防止対策

- ・会場観覧者は来賓等関係者のみとし、式典の様様をオンライン配信
- ・中国・韓国の開催都市からの来北はかなわないため、事前に各都市から挨拶や演奏などの映像データを入手、会場で披露 など

### エ 未来につなぐ東アジア伝統芸能の饗宴 (令和3年8月29日)

#### 主な感染防止対策

- ・楽屋に出入りする出演者及び関係者全員にPCR検査を実施
- ・座席数を50%以内に設定し、公演の様様をオンライン配信した など

### オ 小倉城新能2021 (令和3年10月2日)

#### 主な感染防止対策

- ・特設ステージにおいて福岡県の感染防止宣言ステッカーを取得
- ・観客席は前後1mを確保できるような配席とした など

### カ 閉幕式典 (令和3年11月28日)

#### 主な感染防止対策

- ・会場入りするスタッフ、出演者全員は、健康チェックシートを記入
- ・国の指針に基づき、座席数の制限は設けず、100%入場可能で実施 など



イベント会場の入場前に検温を実施

**(対応を振り返って)**

- イベント準備期間中に催物の開催制限が変更されることもあり、こうした国や県における規制の見直しに、機動的に対応してきた。
- 予約システムの導入、WEBアンケート、出演者のPCR検査、オンライン配信等の実施により、通常よりも、多くのスタッフを配置し、対応した。

**(3) 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会**

- 令和2年11月に大会の誘致決定後、大会に向け、万全のコロナ対策による安全・安心な大会を開催して、「コロナ禍での地方における国際大会のロールモデル」となることを目指し、準備を進めた。
- 万全のコロナ対策を講じるため、大会組織委員会や同委員会内の「COVID-19対策会議」、 「北九州市新型コロナウイルス感染症対策検討会議」において、検討を重ねた。

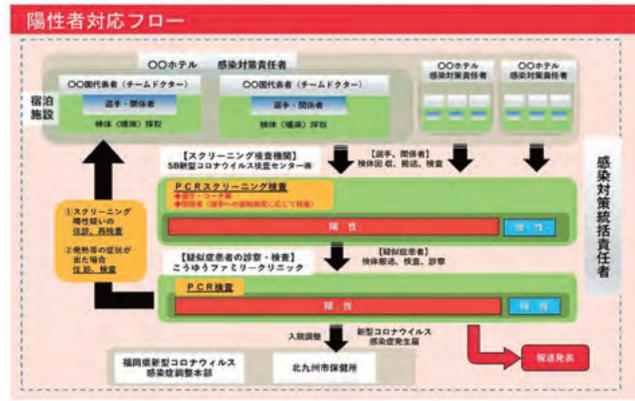
**【大会概要】**

- ・ 「世界体操」、「世界新体操」史上初の同時開催
- ・ コロナ禍で開催された東京オリンピック後、国内初の世界選手権

大会名	第50回世界体操競技選手権	第38回世界新体操選手権
期間	令和3年10月18日～24日	令和3年10月27日～31日
会場	北九州市立総合体育館	西日本総合展示場新館
参加者数	61ヶ国・地域 825名(選手:308名)	48ヶ国・地域 446名(選手:168名)
入場者数	16,527人	10,138人

**主な感染防止対策など**

- ・ 基本的な感染対策の徹底
- ・ 無症状の感染者を見逃さないためのスクリーニング検査の実施
- ・ 選手等の行動を制限し、外部との接触を防ぐ「バブル方式」による運用
- ・ 行動制限下にある選手のストレスを解消するため、アクティビティを提供
- ・ ワクチン接種や陰性証明を活用し、入場制限等の緩和を行う「ワクチン・検査パッケージ」を活用して開催



選手等から陽性者が発生した場合に備え、対応フローを作成

**(対応を振り返って)**

コロナ禍での大会開催となったため、組織委員会や本市等が連携しながら、バブル方式による運用などの感染防止策、「ワクチン・検査パッケージ」の活用による観客入場制限の撤廃、徹底的な情報公開などに取り組んだ。

その結果、クラスターや観客・国内スタッフの陽性者を発生させなかったことや、「ワクチン・検査パッケージ」として初めて、「有観客100%の国際大会」・「長期間の大会」を実現したことで、「コロナ禍での地方における国際大会のロールモデル」を構築することができた。

**(4) 東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ**

- 新型コロナウイルスの影響で、東京2020オリンピック・パラリンピックが1年間の延期となり、複数の国・種目が事前キャンプを中止する中、本市では2ヶ国・4競技の事前キャンプが実施された。
- 事前キャンプの受入れに際しては、国が定める指針等に基づき、感染症対策マニュアルの作成が義務付けられた。

**事前キャンプ受入実績**

- **コロンビア(令和3年7月5日～20日)**  
(競技) テコンドー、フェンシング、アーチェリー
- **ドイツ(令和3年8月15日～19日)**  
(競技) 女子車いすバスケットボール

**事前キャンプにおける感染防止対策**

- ・ 国の定める指針により、活動範囲は練習会場と宿泊施設に限定
- ・ 市民との動線分離など、いわゆる「バブル方式」での感染症対策を実施
- ・ 選手団は、来日3週間前までに、新型コロナウイルスワクチンの接種を済ませること など

## 具体的な取組例

### ア 出国前

- ・ 14日間の健康観察
- ・ 出国96時間以内に2回の検査(陰性検査証明書を取得)

### イ 入国時(検疫)

- ・ 接触アプリ(COCOA)と健康観察アプリ(OCHA)をダウンロード
- ・ 陽性者発生時等の連絡調整のため、市職員を現地(羽田又は成田空港)まで派遣

### ウ 検疫で陽性者が出た場合の対応→「事前キャンプ中止」の判断

- ・ 陽性者は、国の検疫が指定する場所で隔離
- ・ 機内の座席情報等から「濃厚接触者(疑いを含む)」を特定し、国が指定する一時滞在施設で隔離
- ・ 濃厚接触者でない者は、国の基準では隔離の必要はないが、市の独自方針として、本市が確保した空港周辺のホテルで隔離し、市内への移動は不可とした

### エ 機内の他の乗客から陽性者が発生し、選手団の一部が濃厚接触者になった場合

- ・ 濃厚接触者(疑いを含む)は、国が指定する一時滞在施設で隔離  
(濃厚接触者とならなかった場合は、飛行機で本市へ移動)

### オ 成田空港及び羽田空港(国際線→国内線)→北九州空港・福岡空港への移動

- ・ 空港内での移動時及び乗降のタイミングは、一般客と動線を分離
- ・ 羽田空港国際線到着口から国内線ターミナルまでは、専用車両で移動
- ・ 成田空港から羽田空港国内線ターミナルまでは、専用車両で移動 など

### カ 本市滞在時(宿泊施設・練習会場)

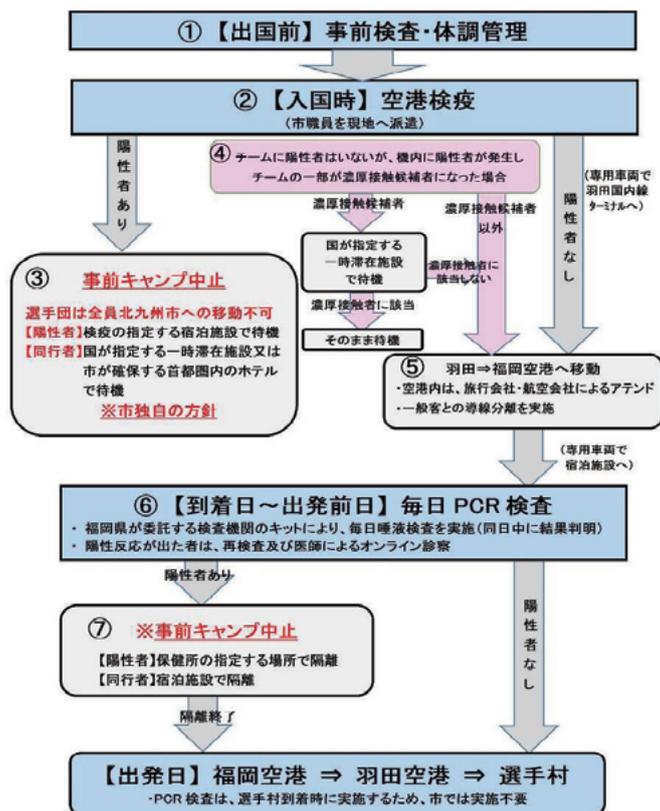
- ・ 宿泊施設の客室及び食事会場はフロア貸切とし、フロア間は専用エレベーターで移動
- ・ 練習会場へはコロナ対策を施した専用車両で移動
- ・ 練習会場は、施設を貸し切り、一般利用者との接触を回避 など

### キ 本市滞在時(PCR検査)

- ・ 選手団は毎日検査を実施
- ・ 選手団に一定の接触がある関係者も、接触の度合いに応じて検査を実施  
(例)
  - ・ 通訳、市職員など選手団に帯同する者: 毎日
  - ・ 食事スタッフなどの選手団と複数日にわたり「1m以内で15分以内の接触」又は、「1m以上確保した上で15分以上の接触」が見込まれる者: 4日に1度
  - ・ 清掃スタッフなどの選手団と接触がごく限定的である者: 7日に1度
- ・ 上記に限らず、感染の疑いがある場合、独自に再検査を実施するとともに、宿舍等で迅速に隔離した

### ク 市内での陽性者発生時→「事前キャンプ中止」の判断

- ・ 陽性者は、市保健所の指定する場所で隔離
- ・ 陽性者以外の者は、濃厚接触者とみなし、市保健所の指示に従い待機



滞在期間中における感染症対策フロー図(例)

(対応を振り返って)

- 「バブル方式」での感染症対策に取り組み、選手やコーチ、宿泊施設従事者など、事前キャンプに関するすべての関係者に陽性者は出なかった。
- 感染対策の取り組みについては、選手団もルールの順守に協力的であり、大きな混乱はみられなかった。

(5) 北九州マラソン

- 新型コロナウイルスが感染拡大していた令和3年(第8回)、令和4年(第9回)は大会の中止を決定した。また、令和2年(第7回)、令和5年(第10回)においては、感染防止対策を講じた上での開催となった。

【開催の変遷】

大会年	開催	決定理由
2020年(第7回)	○	新型コロナウイルスの感染が拡大している中国からのエントリー者(ランナー)に、大会参加への自粛要請等の対策を講じた上で、大会を開催。
2021年(第8回)	×	新型コロナウイルスの感染拡大により、ランナーを始め、ボランティアや救護スタッフなど、大会に関係するすべての方々の安全確保が見通せないため、中止。
2022年(第9回)	×	

大会年	開催	決定理由
2023年 (第10回)	○	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で、大会を開催。

### 【北九州マラソン2023大会概要】

- ・ 開催日：令和5年2月19日
- ・ コース：北九州市役所前～北九州国際会議場前  
(ファンランはスタート・フィニッシュともに北九州国際会議場)
- ・ 出走者数：11,084人  
(フルマラソン：10,056人、ペアリレーマラソン：253組506人、ファンラン：522人)

### 感染防止に関する主な取組

- ・ 北九州市医師会、福岡県看護協会、行政機関の代表者等を構成員とする新型コロナウイルス感染症対策部会を設置
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアルに沿った運営及び感染防止対策の実施
- ・ ワクチン接種や陰性証明を活用した「ワクチン・検査パッケージ」の導入

### (対応を振り返って)

大会における新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するため、北九州市医師会や福岡県医師会、本市保健所等の担当者と適宜協議をしながら検討を進めてきた。

## (6) 成人式

- 「成人式」(令和2・3年度)及び「二十歳の記念式典」(令和4年度)の開催にあたっては、国や県等からの通知や実行委員会の意見、他都市の開催状況などを踏まえ、必要な感染防止対策を講じながら行った。

### 【令和2年度成人式】

- ・ 開催日時：令和3年1月10日
- ・ 参加者：約5,000人

### 感染防止に関する取組

- ・ 午前、午後の2部制実施
- ・ 式典時間の短縮(45分→30分)
- ・ 小倉駅と会場間のバスの増便
- ・ オンラインでの動画配信 など



会場では基本的な感染防止対策を呼びかけた

### 【令和3年度成人式】

- ・ 開催日時：令和4年1月9日
- ・ 参加者：約2,600人

#### 感染防止に関する取組

- ・ 事前登録制の導入
- ・ 会場内ブロック別退場の実施
- ・ 式典時間の短縮(30分)
- ・ オンラインでの動画配信 など



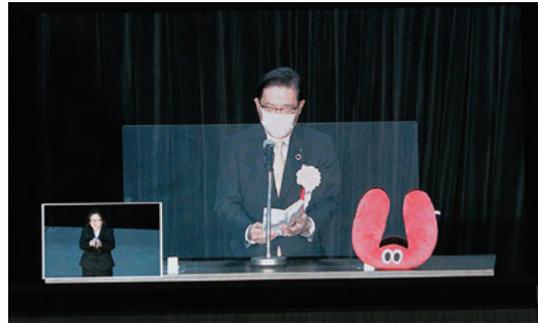
ソーシャルディスタンスを確保するため、椅子の間隔を広くした

### 【令和4年度二十歳の記念式典】

- ・ 開催日時：令和5年1月8日
- ・ 参加者：約3,100人

#### 感染防止に関する取組

- ・ 事前登録制の導入
- ・ 会場内ブロック別退場の実施
- ・ 式典時間の短縮(30分)
- ・ オンラインでの動画配信 など



式典の様子はオンラインで動画配信を行った  
(令和4年実施の様子)

### (対応を振り返って)

新型コロナウイルス感染拡大以降の「成人式」及び「二十歳の式典」については、ソーシャルディスタンスを確保するなどの基本的な感染防止対策を徹底して行ってきた。しかし、令和2年度開催にあたっては、式典終了後に、新成人が記念撮影や会話などで滞留が生じ、屋外ではあったが、密状態が発生するといった課題があった。これを受けて、令和3年度及び4年度開催については、式典終了後は、座席ブロック別の分散退場を実施する等の対策を講じ、メディアドーム周辺での混雑緩和と滞留時間の短縮につながった。

## (7) 世界洋上風力サミット2021

- 一般社団法人日本風力発電協会が世界風力会議と共催で世界洋上風力サミットを日本で初開催することとなり、国内の洋上風力先進地である本市が会場となった。
- 当初は2020年(令和2年)10月に開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、2021年(令和3年)10月に延期となった。

### 【世界洋上風力サミット2021の概要】

- ・ 開催日：令和3年10月7日～8日
- ・ 会場：北九州国際会議場
- ・ 主催：一般社団法人日本風力発電協会 (JWPA)
- ・ 共催：世界風力会議 (GWEC)、北九州市

#### (参加者数)

- ・ 延べ来場者数：560名(推定)
- ・ 延べウェブ参加者数：340名

#### (関係者数)

- ・ 登壇者：約30名
- ・ 出展者：13社約50名



世界洋上風力サミット2021開催の様子

### 主な感染防止対策

- ・ 関係者は全員、PCR検査を受検し、参加者に対しても、PCR検査で陰性を確認のうえ、参加するよう依頼した
- ・ 建物への入口を1か所とし、サーモカメラによる監視や手指消毒を徹底
- ・ 建物内でのマスク着用を必須とした
- ・ 会場の定員は本来の定員の3分の2までとした

### (対応を振り返って)

- 当サミットは、コロナ禍での開催となったが、リアルとウェブでのハイブリッド開催としたほか、マニュアルを策定したうえで感染防止対策に取り組んだ。
- これらの取組により、イベント関係者や参加者において、新型コロナウイルスの感染は確認されなかった。

## (8) 関門海峡花火大会

- 令和2、3年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実行委員会は2年連続で中止を決定した。
- 令和4年度は、国の基本方針に基づき、『収容定員が設定されていない、大声なしのイベント』と位置付け3年ぶりに開催。約40万人(門司側20万人、下関側20万人)が観覧した。

### 【主な感染防止対策】

#### ア 飛沫の抑制の徹底

- ・ 正しいマスクの着用及び大声を出さないことの注意喚起 など

#### イ 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 会場入口での手指消毒液を設置 など

#### ウ 来場者間の密集回避

- ・ 花火の打ち上げ時間を例年の50分から30分に短縮
- ・ 観客密集回避のため入場ゲートを増加するなど観客の動線を工夫
- ・ 無料観覧エリアを廃止し、観覧エリアは有料席のみとし、収容人数を例年の50%に抑制
- ・ 特別協賛席、招待席の密集回避に適した観客席の配置
- ・ 人が密集する場所での会場アナウンスによる呼びかけ
- ・ JRなどの公共交通機関の増便
- ・ 自宅等で鑑賞を行えるよう、ライブ動画の配信

#### エ 飲食の制限

- ・ 飲食中以外のマスク着用の推奨
- ・ 購入客間の距離の確保及び飲食提供者への感染防止対策の徹底依頼
- ・ 飲酒自粛の呼びかけ

#### オ ステージ出演者・関係者等の感染対策

- ・ 従事者の健康チェック

#### カ 来場者への注意喚起

- ・ 直帰の呼びかけ及び有症状者は来場しないよう呼びかけ

#### (対応を振り返って)

3年ぶりの開催となった令和4年度は、コロナ禍での開催となったが、感染防止対策などの新しい試みを行いながら、本花火大会を無事に開催することができた。

### (9) 公営競技局所管イベント (ボートレース・競輪)

#### ア ボートレース

- グレードレース等の開催にあたっては、通常レース時より、かなり多くの来場者が見込まれるため、日々の感染対策を一層強化する必要があったが、感染対策を徹底したことで無事に開催することができた。
- 県の要請により、グレードレースでは事前申込による入場規制を行うなど、人数制限、感染対策を徹底したうえで、レースを開催することとした。

### 【主なイベント】

- (ア) プレミアムGI第2回ボートレースバトルチャンピオントーナメント競走  
(令和2年12月3日～6日)

#### 主な感染防止対策

- ・ 来場者の十分な間隔を保持するため、2,000人の入場制限を実施
- ・ 広域な移動による感染拡大のリスクを低減するため、入場者の地域を福岡県及び近隣県(山口県・佐賀県・大分県・熊本県)の在住者に限定した など

- (イ) SG第48回ボートレースオールスター競走 (令和3年5月25日～31日)

#### 主な感染防止対策

- ・ 開催期間中の入場は福岡県在住者に限定した
- ・ 入場定員を2,500人から1,500人に縮小
- ・ 全日程で事前申込制の導入 など

- (ウ) GI全日本覇者決定戦ボートレース若松開設70周年記念競走  
(令和5年1月20日～26日)

#### 主な感染防止対策

- ・ 来場者の十分な間隔を保持するために、5,000人の入場制限 など

- 下記大会においても、それぞれ必要な感染対策を徹底の上、開催を行った。
  - ・ GI全日本覇者決定戦ボートレース若松開設69周年記念競走(令和4年3月7日～12日)
  - ・ GI第69回九州地区選手権(令和5年2月12日～17日)
  - ・ プレミアムGI第24回マスターズチャンピオン(令和5年4月18日～23日)

## イ 競輪

- コロナ禍中の開催となった第62回～第64回競輪祭は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、入場制限やマスクの着用等の基本的な感染防止対策を講じたうえで開催した。

### 【主なイベント】

- 選手宿舎は、4人部屋であるため、感染防止対策上、1人のみの使用とし、不足分は、ホテルの借上げ(100室)を行った。ホテルから競輪場までの選手輸送は、マイクロバスやジャンボタクシーの借上げを行い、実施した。

- (ア) 第62回競輪祭(令和2年11月18日～23日)

#### 主な感染防止対策

- ・ 入場は事前申込制とし、対象は福岡県及び周辺4県在住者に限定した。また、入場上限は、2,500名(抽選)とし、来賓などの招待はすべて中止とした
- ・ 競輪祭の様子はYouTubeで配信し、場内でのイベントは中止した など

(イ) 第63回競輪祭(令和3年11月18日～23日)

**主な感染防止対策**

- ・ 当初、入場については事前申込制(居住地制限はなし)で、上限は2,500名としていたが、新型コロナ警報の解除に伴い、事前申込なし、上限5,000名に緩和した
- ・ 来賓などの招待は本市在住者に限定した
- ・ YouTubeによる配信を実施 など

(ウ) 第64回競輪祭(令和4年11月22日～27日)

**主な感染防止対策**

- ・ 第63回同様、入場上限5,000名(事前申込なし)とし、競輪祭の様子はYouTubeでも配信した

**(対応を振り返って)**

グレードレース等の開催にあたっては、通常レース時より、かなり多くの来場者が見込まれるため、日々の感染対策を一層強化する必要があったが、感染対策を徹底したことで無事に開催することができた。



入場定員を縮小  
(SG第48回ボートレースオールスター競走)



会場入口で感染対策の呼びかけ  
(第64回競輪祭)